



事業部

園山 英毅さん(40歳)

Sonoyama Hideki



粘り強く農業支援

最も思い出深い仕事は、カンボジアで2012年5月から15年3月にかけて担当してきた農業開発プロジェクトです。国際協力機構（JICA）の長期専門家として、現地農家に収入向上を目指し、コメの収量を上げて販売を促進するための技術研修などを行いました。このプロジェクトで困難だったのは、自然災害による影響です。例えば、対象地域の一部が大洪水に見舞われ、田んぼが台無しになってしまったこともありました。また、効果の高い技術でも、手間やコストがかかると、なかなか農家に受け入れられないという事情も考慮する必要がありました。それでも、各地域の実情に合わ

せてプログラムを柔軟に変えながら、粘り強く支援を続け、何とかコメの収量と収入の向上を実現しました。終了時に多くの農家から喜びの声を聞いて、「支援した甲斐があった」と胸をなで下ろしました。開発途上国との最初の接点は、学生時代でした。当時、アジアや中東をバックパッカーとして旅行していたことがきっかけで、「将来は、開発途上国へのプロジェクトファイナンスに携わりたい」と考えて、大手銀行に就職しました。ところが、入行して間もなく銀行が経営破たんしてしまいました。「このままでは途上国の開発にかかわることができない」と考え、本

Career Path

Age	
22	大学卒業後、大手銀行に就職
24	英国イーストアングリア大学院に留学
27	青年海外協力隊員としてグアテマラで活動
30	ジュニア専門員としてエチオピアで活動
32	JICA企画調査員としてマラウイで活動
35	JICA企画調査員としてスリランカで活動
37	株式会社 JIN に入社後、長期専門家としてカンボジアで活動
40	コンサルタントとして南スーダンのプロジェクトに参画

Point

持続的な効果にこだわり 質の高いサービスを追求

「開発途上国の人々に質の高いサービスを提供する」— (株) JIN は、こうした志を持ったコンサルタントたちが集まり、2011年に設立された企業だ。これまで南スーダンにおける国家の農業開発の基礎となる「包括的農業開発マスタープラン策定支援プロジェクト」(2012年～)のように、複数の国際機関がかかわる難易度の高い案件を担当し、存在感を示してきた。

JINの特長は、プロジェクトを一過性のものにするのではなく、持続可能な成果を追求していく姿勢にある。例えば、プロジェクト終了後も、自社負担で独自にフォローアップを行うことがある。これは、その場限りの結果ではなく、開発途上国の人々に心から満足してもらえるサービスを提供し、その効果の持続性に責任を持つJINならではの取り組みであろう。また、社員の個人活動もサポートしており、社員自らが関心を持つ開発途上国の課題に腰を据えて取り組める体制も整えている。

そのため、JINの採用活動でも、応募者の経歴以上に、その人が持っている根本的な価値観を重視している。「開発途上国のために何をやりたいのか。そして、自分には何ができて、何が足りないのか」ということを真剣に考え、行動することができる人材を随時求めている。



company data

株式会社 JIN JIN Corporation
〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町2-10 シンテイ大宮ビル 3F-B
設立：2011年2月 資本金：1,500万円 従業員数：12人
代表者：代表取締役 大野康雄
事業分野：農業・農村開発、保健衛生、環境・社会配慮、評価分析、人材育成、中小企業支援など

recruitment

新卒採用：なし 中途採用：あり
募集職種：開発コンサルタント
募集人数：通年募集（募集時 HP に掲載）
TEL：048-650-0400 FAX：048-650-0401
URL：<http://www.jincorp.jp/>



現地の信頼を獲得したカンボジア農業開発プロジェクト

格的に国際協力の世界に進もうと決心し、仕事を退職して24歳で英国の大学院に留学しました。その後、青年海外協力隊などを経て、30歳の時にJICAのジュニア専門員としてエチオピアでかみがい施設を整備する案件に携わりました。このプロジェクトが大きな転機になります。後にJINを立ち上げる大野康雄・現代表取締役と出会い、途上国支援の現状や課題などを一緒に話し合う過程で「現地の人々に心から喜んでもらえる仕事をしよう」という大野の考え方に強く共感しました。

この出会いがきっかけで、2012年にJINに入社し、15年から南スーダンの農業開発プロジェクトに参加しています。つい最近までJINに在籍しながら、JICA長期専門家として活動していたので、開発コンサルタントとしてはまだ駆け出しです。世界で一番新しい国・南スーダンでは、現在も武力衝突が続いており、プロジェクトは今後も困難を極めることが予想されます。それでも質の高い仕事を心がけ、現地の方々と信頼関係を築きながら成果を上げたいと思います。